



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2011～12年度テーマ

プロバスだより

第193号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2011年12月8日発行

編集・発行：情報委員会

創立 15 年余、会員の努力で培ってきた叡智を、

次のステージで躍進の糧としよう

第193回例会

日 時：平成 23 年 11 月 10 日(木) 8:00～10:00

場 所：野外研修のために、往路バス車内。

出席者：53 名 欠席者 18 名 出席率 74.6%

(会員総数 71 名 休会 0 名)

1. 開会 有泉例会委員長の司会で開会



本日の資料の紹介と出席状況報告があった。

2. 佐々木会長挨拶



本日の野外研修はライフラインの水道がテーマで、岩島委員長をはじめとする研修委員会の企画・立案によるものです。研修委員会

と例会委員会のご尽力により、つつがなく研修が行われることを祈っています。水道は我々の生活にかけがえのないものです。

私が田舎から東京に出てきた昭和 30 年頃から日本は高度成長期に入り、川の汚れがひどくなりました。当時、勤務先の近くの日本橋川はドブ川でありましたが、その後浄化が進み、船が往復できるまでに回復しました。これから金町浄水場、江戸川沿いの矢切の渡し等にまいります、一日を楽しく過ごしたいと思います。

3. パースデー報告 有泉例会委員長

12 月に実施したい。

4. 幹事報告 永井幹事



特に報告事項はありませんが、こういう機会に、なるべく色々な人と話をさせていただきたい。

5. 委員会報告

(1) 例会委員会 有泉例会委員長

出席状況報告（前記のとおり）。

(2) 情報委員会 馬場委員長



「プロバスだより」192 号をお届けいたしました。今回の投稿文は竹内賢治様の「私の仕事史ー4ー」、及び中野義光様の「小さなミスがこんな事に」はミステリアスな

内容で安河内氏も出てきます。又塩澤迪夫様の「私たちの役割」は心意気のある話でプロバススクラブの源流ここにありの内容です。最近、投稿が増えています、手書き文でも結構ですからどんどん投稿して下さい。

(3) 地域奉仕委員会 田中委員長



「第 16 回 生涯学習サロン」のカリキュラムと日程が決まり、11 月 3 日の理事会で承認されました。その概要を、配布資料を基に説明しま

す。開講式の特別講師は泉三郎氏にお願いします。氏はノンフィクションライターで、グローバル・ジャパン・フォーラム (NPO)「米欧亜回覧の会」の理事長です。後に歴史の会から氏の略歴・著書等が報告されますのでその詳細は省略します。特

別講話の仮題は「堂々たる日本人～今、岩倉使節団に学ぶもの～」です。10月末日に杉山前会長、佐々木現会長、推薦者の熊田様と共に泉様にお会いし、特別講師のご快諾をいただきました。

第1週から第3週の講演のテーマと話をする人は配布資料の通りです。

閉講式の特別講師には現在旭化成株式会社の陸上競技部コーチをしておられる川嶋伸次様にお願いします。氏は元東洋大学陸上競技部監督として、2008年に箱根駅伝で東洋大学を優勝に導いたことがあります。特別講話の仮題は「監督～挫折と栄光の箱根駅伝～」です。

野外研修は前年度に取りやめになった江ノ島を予定していると報告しましたが、道路渋滞の恐れ、昼食のこと、雨天の場合の対処等を考慮して「“見直そう 富士山麓”～その自然と富士信仰の歴史～」のテーマで、河口湖周辺と富士山麓に変更したい。県立富士ビジターセンターから富士スバルラインを経由して富士山五合目迄登りたい。天候の心配もありますが、五合目は標高2,300mで雲の上であるため天気の良いことが多いようです。豪快な景色を堪能した後、河口湖畔の見晴亭で昼食をし、富士浅間神社で参拝、更に、富士山頂の測候所にあった観測レーダーが収納されている富士山レーダードーム館を訪問します。新田次郎はこの観測レーダーの建設責任者であり、NHKプロジェクトXでその建設が紹介されたこともあります。

この後、富士吉田市歴史民族博物館、重要文化財の「御師 旧外川家住宅」を見学し、帰途に笹一酒造に立寄ることを計画しています。

原案では朝7時出発、夕方7時帰宅でしたが、理事会で時間を縮めるようにとの指摘がありましたので、約1時間半短縮するべく行程を再検討しています。

いちょう祭りへの協力者を募集したところ12名からの希望があり決定しました。この後、いちょう祭りの通行手形の販売がありますので、ご協力をお願いします。

(4) 交流担当 山崎理事

第一回の関東中央地区プロバスクラブ交流会(八王子プロバスクラブ主宰)が11月17日に開



催されます。当クラブから参加予定の27名には当日のプログラムを配布しました。他のクラブからは28名が参加予定です。当日の午前

10時半から受付を開始するので、役員は9時半に会場のエルシーに集合して下さい。

なお、昼食にお酒がでますので、飲まれる方は車で来ないようにして下さい。会議後、午後2時頃武蔵野陵に行き、解散は午後4時頃になります。

(5) 研修委員会 岩島委員長



本日の主たる目的は我々の体の60～70%を占める水とライフラインの水道について学ぶことです。東京都水道

歴史博物館と金町浄水場では2組に分かれて見学します。会員番号の奇数はA班、偶数はB班とし、夫々土井様と橋本様が誘導します。草もちをお土産にお渡しします。なお、連絡・進行は大高様、土井様、橋本様にお願いしていますが、旗を持っていますのでご協力してください。夕方6時半頃に八王子に戻る予定です。

6. 八王子「宇宙の学校」報告

(1) 運営本部長 下山邦夫



10月30日開校式が行われました。80組全部が登録しました。子供が熱を出したため登録のためにわざわざ来た方も入れ、参加率は

100%でした。八王子市長、教育長も列席挨拶されました。参加者は、座席の余裕はあまりない、駐車場も不足気味との事前の注意をよく守って頂いて、余裕ができました。八王子参加者の真面目さに感動するとともに、プロバスクラブの皆さんに来てもらう余裕が少しあった、来て頂く事が出来たと思いました。重ねてお詫びします。

講演は的川先生の急病で、ピンチヒッターをJAXA曾根準教授（八王子在住、「はやぶさ」を実際に担当された）にお願いし、「はやぶさ」の感動的な帰還を映像と共に聞きました。又、プラネタリウムを鑑賞してもらいました。続いて参加者に「宇宙の学校」の狙いや進め方オリエンテーションを行いました。ほぼご理解を頂いたと思います。午後はスタッフの研修をやりました。テクニカルスタッフは実際に作って体験しました。

今回は、11月13日に八王子教育センターで行われますが、今度は皆さんもぜひ見学に来て欲しい。ただ当日センターではバスケットの大会、富士森体育館等である農業祭等の為、駐車場が混雑するので、乗り合わせ等工夫して来て下さい。

支援の会で、人的支援をさせて頂いている方に申し上げます。13:00 集合をお願いします。13:30 から始まりますので、子どもの動きなどの注意、観察をお願いし、後片付けのお手伝いをして頂けるとありがたいです。運営本部スタッフの方は10時20分集合ですが、これも車には乗らない、やむない場合、相乗りする等工夫して下さい。車は奥に入れるのですが最後まで出られません。テーマは「フィルムケースロケットを作って飛ばそう」、及び「葉脈の標本を作ろう」です。終了は午後4時頃です。

(2) 運営本部業務推進室長 吉田信夫（投稿）



生涯学習サロンと対をなす事業の八王子「宇宙の学校」が緒につきました。

（開校式）

八王子市教育委員会と東京八王子プロバスクラブ等が協力して計画された八王子「宇宙の学校」の開校式が10月30日（日）、サイエンスドーム八王子で開催されました。

当日は、子供1名が発熱で欠席した他は申込者80組全員が登録受けし、開校式に参加しました。KU-MA（こども宇宙未来の会）の方の話では、出席率100%は各地の宇宙の学校開催で初めてのことで、受講者、来賓、ボランティア合わせて230名が開校式に集いました。午前10時15分よ

り開校式が始まり、実行委員長である八王子市教育委員会教育長石川和昭氏の開校宣言に続き、黒須隆一八王子市長のご挨拶がありました。

次に講演が行われましたが、当初予定されていた的川泰宣先生が急なご病気にて、急遽、JAXAの曾根理嗣（よしつぐ）先生のお話となりました。曾根先生は急な依頼にもかかわらず、HAYABUSAが地球から太陽の反対側3億キロ離れた小惑星イトカワまでの往復の活動や、最後にオーストラリアへ着地するまでの成功裏の苦労話等を楽しく話して下さいました。又、次に続く小惑星探査衛星HAYABUSA2にまで触れられました。

引き続き、サイエンスドームが特別に企画した「宇宙の誕生」をテーマにした星座をプラネタリウムドームに映写、居合わせた人々を宇宙船に乗っているような雰囲気に誘い込み、親は感動、子供達からはすごいとの感想が出てきました。

ーガイダンスー

開校式の後、場所を変え、受講者へのガイダンスがなされました。受講者には37種類の家庭学習教材が配られ、その説明や、11月以降スクーリング会場となる教育センターに関する連絡事項、注意事項等を伝えました。

ーボランティアへの説明会ー



午後、ボランティアへの説明会を催しました。ボランティアスタッフは、拓殖大学、桑志高校、スクーレ家庭教育振興

協会、サイエンスドーム、プロバスクラブの方々、総勢46名です。初めての催しと云うことで、11月以降のボランティア各人の役割とスクーリング当日の日程確認、及びKU-MA（子ども・宇宙・未来の会）山下法昭先生の指導のもと、テクニカルスタッフに対するスクーリング教材の実習を行いました。この実習には、スタッフ自身がのめりこみ、子供時代に帰ったような雰囲気が醸し出されました。関係各位の用意周到な準備もあり、開校式は成功裏に終了しました。

〈第1回スクーリング〉

11月13日(日)、第1回スクーリングが教育センターにて開催されました。参加者は73組と90%を超える出席率で、その熱意は素晴らしいものでした。この日の教材は、「葉脈の標本を作ろう」と「フィルムケースのロケットを作って飛ばそう」の2つでした。初めにKU-MAの山下法昭先生から12月10日予定の皆既月食の話があり、月食の原理の話と観測の案内がありました。

—葉脈の標本を作ろう—



植物は太陽と空気と水から地球上の生物を支えています。その植物の葉の葉脈は葉に栄養を送る大事な管です。植物にも生命があり、命の働きへの関心を高めてもらうことが目的です。ここでは、葉脈標本に色を付け、それをラミネートして葉に仕上げます。子供たちは、葉脈標本の葉の出来上がりに満足の様子でした。

—フィルムケースのロケットを作って飛ばそう—



ロケットの原理を知ることが目的です。ロケットの型紙とフィルムケースでロケットを作り、フィルム

ケースに発泡入浴剤を入れ、飛ばしました。子供たちは、ロケットが飛び上がる様子に大喜びでした。教育センターの講堂は参加者に比し、やや手狭でしたが、スクーリングは成功でした。今後実施される12月11日(日)、1月15日(日)のスクーリングには、是非ともプロバスクラブの皆さんも参加して頂き、子供たちの明るい笑顔と熱気を肌で受け止めて頂ければと感じました。

7. 同好会報告

(1)お茶の会 麻雀クラブ、美術鑑賞の会は特になし。

(2)ゴルフ同好会 米林伸恭会員

第24回コンペを11月24(木)・25日(金)に都留市の都カントリークラブで忘年会を兼ねて行います。未だ若干の余裕がありますので参加希望者は申し出て下さい。

(3)歴史の会 土井俊雄会員

忘年会を12月17日(土)にみささ苑で行います。



講演者はさきほど紹介のあったみささ苑の当主泉三郎先生です。泉三郎先生の演題、略歴・著書、又みささ苑の情報等は配布資料をご覧ください。正式の申込書は12月例会にて配布しますが、おおよその出席者を把握したいので、今配布した短冊にて申し込みください。

(4)写真の会 矢島一雄会員

秋の撮影会を11月30日(水)に紅葉を求めて古都鎌倉で開催します。JR八王子駅、朝7時25分発大船行に乗車します。撮影は北鎌倉の円覚寺、明月院、建長寺、妙本院等です。

(5)俳句の会 河合和郎

10月の例会で会員を募集したところ私を含め



て6人の応募がありました。12月の例会の後会合を開きます。小さく生み大きく育てたいと思っています。

(6)囲碁の会 下山邦夫会員

秋季囲碁大会を10月21日と22日に1泊2日で行いました。10名の参加者の総当り戦を行い、優勝者は田中信昭さんでした。

「優勝しました！」～囲碁同好会・23年秋の大会で奮戦～ 田中信昭(投稿)

去る10月21日から一泊二日、恒例の囲碁大会が陣谷温泉で開催され、私は初めて参加させてもらいました。中央線の藤野から宿の送迎バスで直ぐの所にこんないい場所があるのかと驚く秘境の温泉宿で貸し切り状態、すっかり気に入ってしまいました。今回10名の参加者の殆どは何度もこの場所を利用しておられるベテランばかり、皆さん集合の時からすっかり上機嫌で、行き電車の中から大声ではしゃぐ様はまるで小学生の遠足のよう。

それでも実戦は全員の総当たり戦ということでひとりが9戦も戦うという熾烈なもので、冗談

を飛ばしながらも闘志を露わにする人、静かに闘志を秘めた人、連続優勝を狙う人、そんな中で今回の番狂わせは大御所(?)のお二人が序盤から不調で、早々と優勝戦線から脱落されたことでした。偶々幸運に恵まれた私は出足好調、連勝を続けていました。豪華な夕食でまた一段と盛り上がりましたが、大好きなアルコールも少し控えめにして後半戦に備えました。一杯入ってから俄然口の周りが滑らかになる人、寝入り端のいびき騒ぎ等々ありながらも雨音の激しい一夜が明けました。

品数の多い朝食を皆さんしっかり平らげて、順位争いからむ各自残り 2 戦の戦いに向かいました。結果は何と 8 勝 1 敗で私の優勝ということになり、誠にラッキーなことでした。嬉しい結果もさることながら、この間本当に囲碁のことだけに没頭できた正に「三昧」の言葉に相応しい時間を作って頂いた皆さんに心から感謝です。

引越しの度に各種の優勝カップやトロフィーを処分して来た我が家の書斎に、今たった一つの優勝カップが燦然と輝いています。



8. 閉会の挨拶 吉田副会長

本日はバスのなかで肌の触れ合う例会でした。これから東京都水道歴史館、金町浄水場等を見学するのですが、蛇口を捻ると水を自由に使える便利さを支える裏方を知ることは大切です。これからの研修旅行を楽しみたいと思います。

11 月 13 日の宇宙学校のスクーリングに皆様もご参加して下さい。又、11 月 17 日の関東中央地区プロバスケットボール交流会を主催しますが、皆様のご協力をお願いします。

9. その他

(1)有泉例会委員長

12 月 8 日(木)に臨時総会と例会を開催します。

当日、12 時 20 分からワンドリンク(300 円)を行いますが、参加される方は車の利用をご遠慮ください。又、新年会の費用 5,000 円を徴収します。

(2)佐々木会長

11 月 19 日(土)・20 日(日)のいちょう祭りについて配布資料を基にご案内します。C 会場にプロバスケットボールの 12 名の方に交替でおつめいただき、受付を担当して頂きます。この会場はイベントの中心会場で、事務局のある B 会場との間にホットラインを設け、連絡できるようになっています。

本日通行手形の販売を行いますので、ご協力をお願いします。祭りの費用は約 2,700 万円で、市から 600 万円の補助金が出ますが、残額を手形販売・模擬店・広告の収入等でまかないます。

本年度は八王子祭りが無かった為に、参加希望者が非常に多くなりました。新しい催しはミニ SL 広場(C 会場)、さるまわし(B 会場)、リサイクルバザー等です。20 号線沿いには多くの出店がありますが、事務局の警護責任は主として A~F 会場であり、とくに C・D 会場にイベントが集中しています。スタッフにはご負担をかけますが、トラブル等には適切に対処してください。

野外研修

—ライフラインの一つ、水・水道について学ぶ—

東京都水道歴史館、金町浄水場、柴又帝釈天、矢切の渡し、スカイツリー(車中見物)、向島百花園を巡りました。8 時に JR 八王子駅南口、元「たましん」前をバスで出発し、前記場所を巡り、途中料亭あびす家で昼食をし、夕方 6 時頃に出発場所に戻った。なお、帰途のバス内で山形会員の指導で歌唱を楽しんだ。

東京都水道歴史館：江戸から東京の 400 年間の水文化及び水道の発展の歴史が展示されている。1653 年に玉川兄弟が着手した玉川上水の物語、1898 年に開始された近代水道の歩み、神田上水、お茶の水の懸樋、水道管物語等等。

金町浄水場：都内最大規模 150 万トン/日の浄水場で、1926 年に竣工され、原水は江戸川流水を導入している。1992 年からオゾンによる高度浄水処理を開始し、ボトルウォーター「東京水」として市販されるほどおいしい水が供給されるようになる。



柴又帝釈天:1629年、禅那院日忠及び題経院日栄により開創された日蓮宗寺院である。帝釈堂内殿の装飾彫刻は有名で、また、映画「男はつらいよ」の渥美清演じる車寅次郎のゆかりの寺として知られる。

矢切の渡し:1631年、江戸幕府が関東代官を管理者として始めた。現在、私営の観光「渡し」であり、小説「野菊の墓」、映画「寅さん」の舞台場所でもある。



スカイツリー:来年半ばに完成する世界最高634mのタワーである。

向島百花園:江戸町文化が開いた1805年頃に、骨董商の佐原鞠塙が江戸の文人墨客の協力を得て造った花園である。



「宇宙」=不思議・未来・いのち 下山 邦夫

「宇宙の学校」を進めることに刺激され、宇宙について読んだり、考えたりしても、その不思議さは深淵そのもの、理解の範疇を超えています。

「宇宙の学校」を進める者として、良く解らないけど何か書いておこうと思い投稿しました。

生命が発生し、進化し、増えていく為には、長

い時間にわたって、安定した環境が絶対必要条件です。長い長い時間を通して一定の熱が供給され続ける事は、なかなか起こり得ないことなのです。宇宙の星は天の川銀河系だけでも2,000億個とされていますが、それらの星でも大きすぎたり小さすぎたり、また連星系もあるし、惑星があったとしても、ガス惑星だったり、その軌道が長楕円や8の字であったり、生命を養うには、余りに過酷、熱すぎたり、冷たすぎたり、変化したりするものが多いそうです。

幸運にも、太陽が一つであり、地球の軌道がほぼ円軌道になっているので、寒暖の差が少ない。又、地球には水があり、太陽との距離は水が凍らず、蒸発せず、ちょうど液体の温度になる距離です。太陽の重さもちょうどよい、大きいと寿命が短いし、小さいと暗い。数十億年も安定して光っている太陽に恵まれている。まさに我々はラッキーなのではないでしょうか。

それでも数多い星だから、このような条件の惑星は宇宙には他にもあるかもしれない。水のある惑星探しが盛んに行われています。米国では地球外生命(E.T.)を探すプロジェクトもあります。地球外からやってくる電波の中から人工的信号があるものを探し出そうと言う、夢にお金をかける米国らしい(でもさすがに、予算や寄付が続くか、厳しいところとか)。E.T.からの信号を探したり、地球外での人間の生活を想定したり、今日ではそれを荒唐無稽とは思わなくなった。科学技術の発展のお陰です。ハッブル宇宙望遠鏡や大型の超精密望遠鏡の活躍、電波からX線まで利用した観測、そして、特に「はやぶさ」の大冒険、大成功で小惑星探査による太陽系の起源の研究(写真参照)、最近の発達は素晴らしい。人類は実に高級な知的生命となったわけです。



(KU-MA提供)はやぶさの大気圏再突入。



(KU-MA提供) カプセルを切り離すはやぶさ(イメージ)。

この事も考えてみれば不思議で、このように人類が発達したのは数々の地球史的な大事件、現象が、信じられないほどの偶然で作用した、その結果、知識を獲得した生命即ち、人類を生みだしてきたのでしょう。その確率もまた極々低い。我々の命はものすごく大切なもの、宇宙レベルで考えても、まさにかげがえのない「命」を生きている。生命は常に複製によって、引き継がれていきます(子孫)。複製し進化することこそ生命の本質でしょう。そうして命は次々と未来を紡ぎだしていく。新しい命がさらに高級な知識を得て、発達していく。

「宇宙の学校」は、宇宙を素材に「命の大切さ」を導きとして、子どもたちの心に火をつける、子ども心に潜む、好奇心、冒険心、匠の心を育んでいきます。的川先生は、それはとりもなおさず「未来の学校」だと言っておられます。理科だけではなく、いろんな方面で第一線で活躍されている方々のご意見を生かしたいと言っておられます。「宇宙の学校」の基本理念は豊かな未来を創造する基礎づくりに在ると言えるのです。まだスタートして日が浅いのに全国に広がりつつあるのは、その基本の考えが共感を得るからでしょう。教材や、実験などKU-MA(子ども・宇宙・未来の会)の先生方が苦心して作ってきて、とても充実しています。基本理念に従って、もっと多様化し発展するように、KU-MAの皆さんが取り組んでいます。KU-MAの高名なサポーターだけでなく、我々プロバスクラブの経験からも提供できるものが在ったらいいな、とってしまします。

一昨年でしたか海浜公園の科学技術館の見学の時、オーロラの生の音を聞きました。知ってい

れば感動ですが、知らなければ何だかわからない、ばかばかしいだけ。「宇宙を素材」にするとと言っても、子供に興味をわかすのは、大人の押し付けではだめです。そこにKU-MAの先生方の苦勞があります。

宇宙をどんどん遠くへ行って、どこに行きつく？果てはあるの？137億光年と言うがそれならその先は何があるの？年齢は137億年と聞くけど、その以前には何があったの？どうして生まれたの？「無限の空間・時間」と「有限の宇宙」との関係は常識では計り知れないですね。でも科学者は宇宙を懸命に観測、計算しています。限界に近い深宇宙の観測も出来ています。宇宙はマルチバースし、子宇宙、孫宇宙等がある、無数の宇宙があるとか。なんとも不思議で理解しがたいですが、不思議だと思ふ心が好奇心です。だからこそ「宇宙を素材」にすると心に火が付くのではないかと思います。「宇宙の学校」に老後の最後の時間と夢をかけたくなる、この心境を解って頂けたら幸いです。

「ボランティア考」 杉山友一



今の時代、私たちは新聞、テレビをはじめ、あらゆるメディアを通じて、ボランティアという言葉が毎日のように耳にしています。その大きなきっかけとなったのは、まさに平成7年の阪神淡路大震災です。そして今年3月11日に東日本大震災の未曾有の被害を受けて、ボランティアの役割の重要性、存在感は一層強固なものとなっています

ボランティアとは、そもそもラテン語のルーツは「自由意志」ですが、先進国家において近年これほどボランティアが重要な地位を占めるようになったのには訳があります。まずは、どこの国においても「公」の立場で行政が目指すものは最大多数の幸福です。したがって、公約数の外に漏れたところにはなかなか手が回らない仕組みになっているのです。そして又、行政は最大多数に向かつて可能な限り公平なサービスを提供することを旨としていますから、全てに亘って面倒な

手続きを踏まないとなかなか前に進まない、つまり、大いに時間がかかる宿命を最初から負っているのです。東日本大震災直後、国の内外から、あつという間に集まった善意の塊、義援金が千億円単位で未だに被災者に届いていないということなどは、まさに「公」行政のアキレス腱を示しています。

そこで、こうした社会の歪み、隙間を埋めて、市民社会を円滑に発展させようとする活動がボランティアという行動形態を生み、時代を経てその概念を発達させてきたのです。その流れの中で、ボランティアを法の下で認知し組織化した形態にNPO（特定非営利活動法人）があります。日本のNPOの数は、今日4万2千を数えるところまで来ましたが、NPOの本家アメリカではその数も概ね2倍で、活動の質、量共に比較になりません。日本の場合、数もさることながら単位当りの組織、活動資金も非常に小さいもの（100万円以下）が多く、その辺が今後の課題です。

NPOのコンセプトは、市民社会のQOL（生活の質）を高める手立てとして、行政への不満や批判はひとまず置いて、自分たちでやりたいことを見定め、自分たちに何が出来るのかを検討し、まず自助、共助の流れを社会に定着させることにあります。そう考えたとき、自ずと目指す先は、とかく行政の手の届きにくい分野、あるいは行政だけではやり切れない分野に向かいます。しかも、行政のように長期に亘る面倒な手続きを踏まずに実行できるということが、ボランティアの大きな社会的効果です。現代社会は、自助（70%）共助（20%）公助（10%）の順であると言われる所以です。

さて、ボランティアを日本語にしてしまうと「奉仕者」と捉えられて、その成果はもっぱら他人さまへの一方通行のように映ってしまい勝ちです。しかし、ボランティアは「自由意志」を根底としていますから、一番恩恵を受けているのは実は当人なのです。ボランティア活動は心身の緊張感を持続させ、自己実現の側面も大きく、誠心誠意の活動に心地よい達成感が得られるものです。競争原理の下で効率最優先の経済システムが、とかく綻びを広げて行くこれからの時代、ボラン

ティアこそが、より人間的で穏やかな社会を構築してゆく原動力となるのだと、多くの社会学者が説いています。ボランティアが社会を変えていく時代を迎えていると言っているいいでしょう。ボランティア人口はこれからもどんどん増え続けていくでしょうが、そんななかで、今一番期待されている人たちがいます。多少の時間の余裕と、概ねの元気と、少しばかり自由になる財布を持つ元気な高齢者たちです。わが国の65歳以上の人口が23%超といわれる時代、老人パワーはまさにボランティア資源なのです。「ボランティア活動で高齢者の生き甲斐を」とはお役所のキャッチコピーです。

ところで、ボランティアは最も人間的な社会行動であり、遣り甲斐もあり、楽しみもあるものですが、取り組むときにはそれなりの覚悟が要ります。ボランティアと云えども頭も使い気も遣い、額に汗するそれなりの体力も要る、ときに又自分の財布も傷みます。そして更に、例えどんなに善意のボランティア活動でも、事は人との係わり合いの中で進められますから、意見の衝突もあり、大いに文句を言われたりする場合があります。実はこれらの点をすべて承知の上で、ボランティアは自分のため、人生をより良く永らえるための「日々是れ修行」だと思い込むことこそ長続きする秘訣です。お名前は失念しましたが、原発事故後、放射線の専門家ドクターの提唱に「1%ボランティア」というのがあります。つまり、人は誰でもが自分のためになることに目を向けて生きていますが、その100%の内、少なくとも1%は他の人たちのために日常的にボランティアしましょうという運動です。いつでも、どこでも、誰でもが、他人のために1%のエネルギーを供出する、大いに共感を呼ぶ提言です。高齢者もポジティブにボランティア、それはアンチエイジングのための最高の妙薬かもしれません。私たちのクラブが、「親睦」と「奉仕」を両輪として、年毎にその存在感を高めていることは誠にご同慶の至りです。

編集後記：研修旅行での名場面は紙面の都合で割愛しました。はや師走、良いお年を。

石田文彦